

令和2年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「プロジェクト型」の共同研究 研究報告書

令和3年4月30日現在

研究課題名	戦間期東欧社会の権威主義体制と極右民族主義勢力の分析 ：グローバル・ファシズムの潮流に注目して				
申請者 (代表者)	氏名		所属機関・職		
	門間 卓也		日本学術振興会・特別研究員 PD (受け入れ先：関西学院大学 文学部)		
研究構成員		氏名	所属機関・職	専門分野	役割分担
	1	門間 卓也	日本学術振興会 ・特別研究員 PD	クロアチア史	研究総括・ユーゴ 王国政治体制分析
	2	姉川 雄大	千葉大学 アカデミック・リ ンクセンター・特任講師	ハンガリー史	ハンガリーの権威 主義体制の分析
	3	重松 尚	東京大学 大学院総合文化 研究科・助教	リトアニア史	リトアニア・ナシ ョナリストの分析
4	仙石 学	北海道大学 スラブ・ユーラ シア研究センター・教授	比較政治経済・中東 欧の福祉政治	アドヴァイザー	

研究成果の概要

本研究は、戦間期の欧州でファシズム・イデオロギーの国家横断的な相互学習が見られたとする観点から、当時東欧諸国で形成された権威主義体制や極右組織による統治政策またはプロパガンダの実態解明を目指すものである。ただし2020年度は新型コロナ・ウィルスの影響から現地渡航と資料収集が不可能になったため、各人がこれまで収集した史資料をベースに個別研究に取り組みながら、各々の研究結果を比較検討するオンライン会合を定期的に開く形で共同研究を進めた(5, 9, 12月の都合3回開催)。

共同研究の報告会としては、2021年3月11日にスラブ・ユーラシア研究センターでオンライン・ワークショップを開催した(ハイブリッド型)。門間はユーゴ王国の権威主義体制下でのファシズム運動に対する弾圧と懐柔について取り上げ、姉川は戦間期ハンガリー市民社会における政治的暴力の受容とそれによる国民統合の問題に言及し、重松は反体制派であるカトリック青年知識人による新しい国家秩序の模索について詳述した。各々のアプローチは政治史・社会史・思想的な文脈を踏まえたものであり、戦間期東欧社会に共通した諸問題(民主主義への失望や経済的苦境)に対する当事者の応答が幾分幅を持ちながら、ファシズム・イデオロギーと重なる点を多分に孕むものであることが分かった。

一方アドヴァイザー(仙石教授)からは、こうした東欧諸国における権威主義/ファシズムの「多様性」が各国の歴史的環境に即していかなる「共通点と差異」を備えているか明らかにすることが重要であると指摘を受けた。この点を今後の課題として共同研究の深化に努めたい。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

【図書】

姉川雄大（岩下誠、三時眞貴子、倉石一郎）著『問いからはじめる教育史』有斐閣、2020年。
（担当：8章、9章、終章（共同執筆））（謝辞無し）

【論文】

門間卓也「世界恐慌への対応はなぜ各国で違いが出たのか」歴史学会編『いまを知るための近現代史 —「歴史総合」へのアプローチ』戎光祥出版、2021年（近刊）。（謝辞無し）

重松尚「権威主義政権に対抗するファシズム体制構想—リトアニア人行動主義連合（LAS）の分析を中心に」『国際政治』第202号、2021年、47-60頁。（謝辞無し）

【学会発表】

・オンライン・ワークショップ「大戦間期中東欧における反ユダヤ主義の展開—地域比較の観点から」（共催：東欧史研究会／早稲田大学ナショナリズム・エスニシティ研究所）2021年1月23日。

姉川雄大「「定数制限法」（1920年法律第25号）とハンガリー・反ユダヤ主義史について」

重松尚「両大戦間期リトアニアの反ユダヤ主義的言説と事件」

・北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター公募プロジェクト型共同研究オンライン・ワークショップ、2021年3月11日。

門間卓也「「バルカン型政治」の権威主義とファシズム—ユーゴスラヴィア王国の「クロアチア人問題」を巡るプロパガンダー」

姉川雄大「戦間期ハンガリー体制における「政治暴力」と「差別」の問題について——「戦間期ハンガリー権威主義体制」像をめぐって」

重松尚「1930年代リトアニアのカトリック青年知識人と有機的国家構想」

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

*以下の科研費事業に応募の上、採択済み。

・科学研究費助成事業（基盤研究C）「東欧のファシズムの比較史—戦間期権威主義体制の「新しさ」をめぐって—」（研究代表者：姉川雄大 研究期間：令和3（2021）～令和5年（2023）年度）

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。